



小学校授業研究会

昨日30日(木)は、熊本市で一斉開催された小学校授業研究会が、本校で行われました。これは、熊本市の小学校の先生の指導力の向上を図る目的で開催されています。本校では、道徳教育に取り組んでいますので、道徳の授業を帯西で開催する運びとなりました。これまで取り組んできたことが、熊本市の教育を牽引する力の中の一つとなっていると感じました。これもひとえに、「わくわく」する学校づくりのために、子供たちと職員のこれまでのひた向きの努力の証だと思っています。

公開した授業ですが、道徳科を5年3組の小山 茅夏先生の学級で行いました。教科書の中の「お客さま」というお話から「きまり」について考える授業でした。

あらすじ：わたしたち家族は、遊園地でショーが始まるのを待っている。たくさんの人がやって来て、人がごった返し、中々ステージを見ることができない。係の人がやって来て、「お子さんを肩車したりビデオカメラを上を持ち上げたりしないでください」と呼びかけている。わたしも前の男の人が子供を肩車したおかげでショーが全く見えなくなった。再三の係の人の「肩車はおやめください。」の呼び掛けで、男の人はむっとしながら「私たちはお金を払っているんです。お客さまなんです。」と係の人に言って子供を下ろした。わたしがびっくりしていると周りの人たちも「そうだそうだ。」と同調し始めた。私は気持ちが晴れないまま会場を後にした。

今回の授業は「帯西イエロー」の心の「進んで法やきまりを守り、義務を果たす」に向かって子供たちの心を耕しながら、普段の生活の中の自分たちにも「法やきまり」として、「ろう下は静かに歩く」「公園でボールは使わない」などたくさんあることに気付かせて、ねらい迫っていきました。子供たちは、男の人の立場、周り人の立場、わたしの立場など、様々な人の立場に立って考えていきました。そして、みんながショーをみるためには、「男の人はルールを守って素直に受け止める。」「子供を見やすい方へ移す。」など、それぞれが自分の義務を果たすことで、自分もみんなも楽しめることに気付いていきました。そして、「いろんな人が暮らす場で、きまりを守るために大切な心は何だろう」という場面では、「きまりを素直に受け入れると住む人が楽しく過ごせる」「周りの人を思いやる気持ちが大切」など活発な意見を出し合い、一人一人が自分事として考え、子供たちの多様な考えの中からめあてに対する答えを考えていきました。

そして自分を見つめる場面では、「今までの自分は、きまりを守れていなかったけど、これからは相手の気持ちを考えて行動したい。」など生活に生かしていこうという心情を高めていました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、熊本市の先生方と、授業研究会を行いました。参観者一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。講師の先生も「道徳科の授業のみならず、他教科や生活と子供たちの意識が『心のパズル』で繋がっている。集会等の充実が、今回の授業の中でも生かされている。」と述べられていました。本校で推進している道徳教育が評価され、これからも全職員で、工夫改善を加えながら、自信をもって取り組んでいこうと思います。

今回の授業は5年部でも共通実践を行い、5年生全員の心が育ちました。5年3組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

